東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2007 年 4 月 20 日

預言者ムハンマドの人類への愛情

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマドは、あらゆる被造物の中で疑いもなく最も重い価値を、人間に与えられておられました。このお方が伝えられたクルアーンでは、「またわれが創造した多くの優れたものの上に、かれらを優越させたのである。」（夜の旅章第７０節）「あなたがたは思い起さないのか。アッラーは天にあり地にある凡てのものを、あなたがたの用のために供させ、また外面と内面の恩恵を果されたではないか。」（ルクマーン章第２０節）「本当にわれは、地上に代理者を置くであろう。」（雌牛章第３０節）「人間はそれを担った。」（部族連合章第７２節）「またわれが天使たちに、『あなたがた、アーダムにサジダしなさい。』と言った時を思い起せ。」（雌牛章第３４節）とされており、これらは非常に注意を引くものです。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。慈悲の預言者様の深い愛情は、人類の苦しみをご自身の苦しみとして受け止められることの原因となりました。このお方は人類の苦しみによって嘆かれ、眠れない夜を過ごされました。まさに人々のために生きておられたのです。他の人々が楽になること、生きていけることがまさに、ご自身にとっての楽になることであり、生きることでもあったのです。預言者ムハンマドはご自身が生きるためではなく、人を生かすことに心を砕かれたのです。預言者ムハンマドのイバーダへの理解は、人々のために奉仕し、彼らを助けることに留意されたものでした。

預言者ムハンマドの人類への愛情に関して、クルアーンでは次のように語られています。「今、使徒があなたがたにあなたがたの間から、やって来た。かれは、あなたがたの悩みごとに心を痛め、あなたがたのため、とても心配している。信者に対し優しく、また情深い。」（悔悟章第１２８節）

慈悲の預言者は、その礼拝においてすら、人々の思いに注意を払われる細やかさを示されました。「私は礼拝をしていて、それを長く行ないたいと思っていた。その時子供の泣き声が聞こえてきた。母親がどういう思いをするか私にはわかるので、礼拝を素早く行って終わらせた。」と語られているのです。預言者ムハンマドが人々にこのように情深くあられることは、この世においてもあの世においても人々が幸福であるようにと心を砕かれる原因となり、人が教えへと導かれるためにあらゆる自己犠牲を払われたのでした。このことはクルアーンで次のように語られています。「もしかれらがこの消息（クルアーン）を信じないならば、恐らくあなたはかれらの所行のために苦悩して、自分の身を滅ぼすであろう。」（洞窟章第６節）預言者ムハンマドがターイフで石を投げつけられ、そこから逃れられ、体中から血を流しながら休んでおられた時、ジブラーイールが、もし望むならターイフを破滅させようと伝えたのに対し、預言者ムハンマドはそれを絶対に望まないこと、彼らではなく彼らの子供たちのうち誰か一人がムスリムになることですら、その苦労には十分値するということを明らかにされました。

預言者ムハンマドの教育への見解は、人々への敬意という基盤の上に成り立つものです。兄弟姉妹の皆様、預言者ムハンマドによるなら、宗教、文化、知識、生産、そして社会環境も、すべては人々のためのものです。被造物から益を得ることができるのと同様に、これらのものからも益を得ることができるのです。教えは人間のためにあるのです。だから預言者ムハンマドは皆に、教えから益を得ることについて示そうとされたのです。宗教に関して、人々に抑圧を行なわれたり、良心への侵害を行なわれたりすることは全くなく、またそのようなことを考えられることもありませんでした。人の誇りを踏みにじるようなことは決して口にされず、またそのような振舞いもされませんでした。

私たちもそのお方のウンマの一員として、アッラーの使徒をできる限り知り、その生涯について学び正しく理解する必要があります。アッラーの祝福と平安がありますように。